

情報提供日	2024年(令和6年)3月 日
問い合わせ先	市民生活局文化・スポーツ室 池田・稲原
	918-5629 (短縮 7545)

報道機関 各位

**「赤根川金ヶ崎窯跡出土角杯形土器等須恵器一括」「稲爪神社太鼓」を  
明石市指定文化財に指定**

明石市では、明石市文化財保護審議会（会長 冷泉為人）の答申を受け、令和6年3月27日付けで「赤根川金ヶ崎窯跡出土角杯形土器等須恵器一括」「稲爪神社太鼓」を市の指定文化財に指定いたします。今回の指定により明石市指定文化財は43件から45件になります。

記

（1）赤根川金ヶ崎窯跡出土角杯形土器等須恵器一括（42点）

時代 古墳時代後期（6世紀前半）

評価 赤根川金ヶ崎窯跡は、市内最古の窯跡であり、そこでは須恵器を焼成していた。窯跡、灰原、溝から出土した須恵器類は、全国的に地方窯が拡散していく時期の様相を示すもので、とりわけ角杯形土器は、当寺須恵器を集中的に焼いていた大阪南部の古窯跡群からは見つかっておらず、全国でも20数例しか知られていない特殊な土器である。窯跡からの出土としては、福井県興道寺窯跡とこの明石の出土例の2例しかない。朝鮮半島の新羅地域で多く見ついている土器で、他の装飾付甕などとともに、近畿地方周辺部における文化の伝播のあり方を知る上でも貴重な資料群である。

杯 11点、高杯 3点、角杯形土器 3点、器台 2点、甕 1点、壺 13点、  
甕3点、埴瓶 3点、装飾須恵器 1点、把手 1点、陶板 1点 計 42点

## (2) 稻爪神社太鼓

時代 江戸時代中期 (1788 年)

状態 胴長 75cm、胴径 80cm、鏡面径 68cm

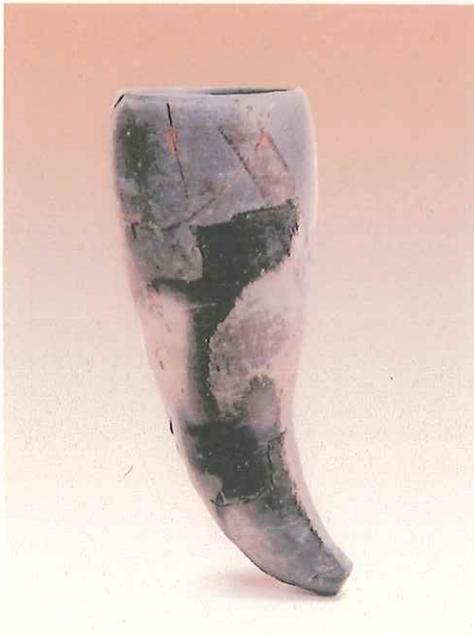
胴体は櫨製、胴体に 4 つの環が付く。胴体内に歴代の太鼓皮張替時の墨書銘があり、最も古いものに天明 8 年 (1788) の年紀がある。

評価 江戸時代中期に発祥したとされる布団太鼓に伴う鳴太鼓であることが、環の配置によって明らかであり、また胴体内に記された墨書から天明 8 年 (1788) に作られたことが推察できる。その後、15 年～20 年毎に太鼓皮の張替えを行っていた履歴も詳細に残されている。当該布団太鼓は城主から拝領したといういわれも残されており、城下で行われていた江戸時代の祭りの様相と太鼓の制作・皮張替えに関わる職人の活動の一端を示すものとして文化財的価値が高い。

	器種	器形	幅	器高	出土地	報告書掲載番号
1	須恵器	杯蓋	13.2	4.5	第一次窯体内	図11-5
2	須恵器	杯身	14.5	4.9	第一次窯体内	図11-11
3	須恵器	杯蓋	15.5	5.1	第二次窯体内	図12-1
4	須恵器	杯身	15.8	5.6	第二次窯体内	図12-1
5	須恵器	杯蓋	13.8	5.0	第二次窯体内	図12-1
6	須恵器	杯身	14.8	6.0	第二次窯体内	図12-4
7	須恵器	杯蓋	15.8	5.9	第二次窯体内	図12-4
8	須恵器	杯身	15.8	5.5	第二次窯体内	図12-6
9	須恵器	杯蓋	14.6	4.6	第三次窯体内	図12-6
10	須恵器	杯身	18.0	5.2	第三次窯体内	図13-7
11	須恵器	蓋(つまみ付)	8.6	5.8	灰層	図13-18
12	須恵器	高杯	12.2	11.6	灰層	図15-13
13	須恵器	高杯	11.7	9.0	灰層	図15-19
14	須恵器	有蓋高杯	11.4	6.7	灰層	写真
15	須恵器	角杯形土器	6.5	9.5	灰層	図24-10
16	須恵器	角杯形土器	4.0	7.5	灰層	図16-34
17	須恵器	角杯形土器	8.5	23.9	溝内	図25-38
18	須恵器	筒型器台	13.5	20.8	灰層	図26
19	須恵器	器台	38.2	48.9	灰層	図27
20	須恵器	甕	43.9	44.0	灰層	写真
21	須恵器	壺	11.0	12.6	灰層	写真
22	須恵器	壺	11.0	12.3	灰層	図15-22
23	須恵器	壺	9.2	8.1	溝内	図24-21
24	須恵器	壺	19.1	19	灰層	図25-31
25	須恵器	小壺	8.2	6.5	灰層	写真
26	須恵器	小壺	9.7	7.2	溝内	図16-25
27	須恵器	装飾須恵器小壺	9.7	7.2	灰層	図25-30
28	須恵器	小壺(ミニチュア)	7.2	4.2	灰層	図25-26
29	須恵器	小壺(ミニチュア)	6.4	3.5	灰層	図25-27
30	須恵器	小壺(ミニチュア)	3.8	2.5	溝内	図25-28
31	須恵器	小壺(ミニチュア)	6.1	3.8	溝内	写真
32	須恵器	短頸壺	12.2	6.2	灰層	図15-23
33	須恵器	短頸壺	13.3	7.3	灰層	写真
34	須恵器	臙	12.8	14.9	第二次窯体内	図12-15
35	須恵器	臙	12.2	11.9	溝内	図24-15
36	須恵器	装飾付臙(オオサンショウウオ)	9.6	7.4	灰層	図17
37	須恵器	装飾付須恵器シカ	4.5	3.6	灰層	図30-3
38	須恵器	提瓶	15.5	19.0	灰層	図16-31
39	須恵器	提瓶	18.3	21.4	灰層	写真
40	須恵器	提瓶(ミニチュア)	(9.6)8.6	8.4	灰層	図25-34
41	須恵器	把手	4.3	7.5	灰層	図16
42	須恵器	陶板	25.7	19.0	灰層	図18



赤根川金ヶ崎窯跡出土品一括

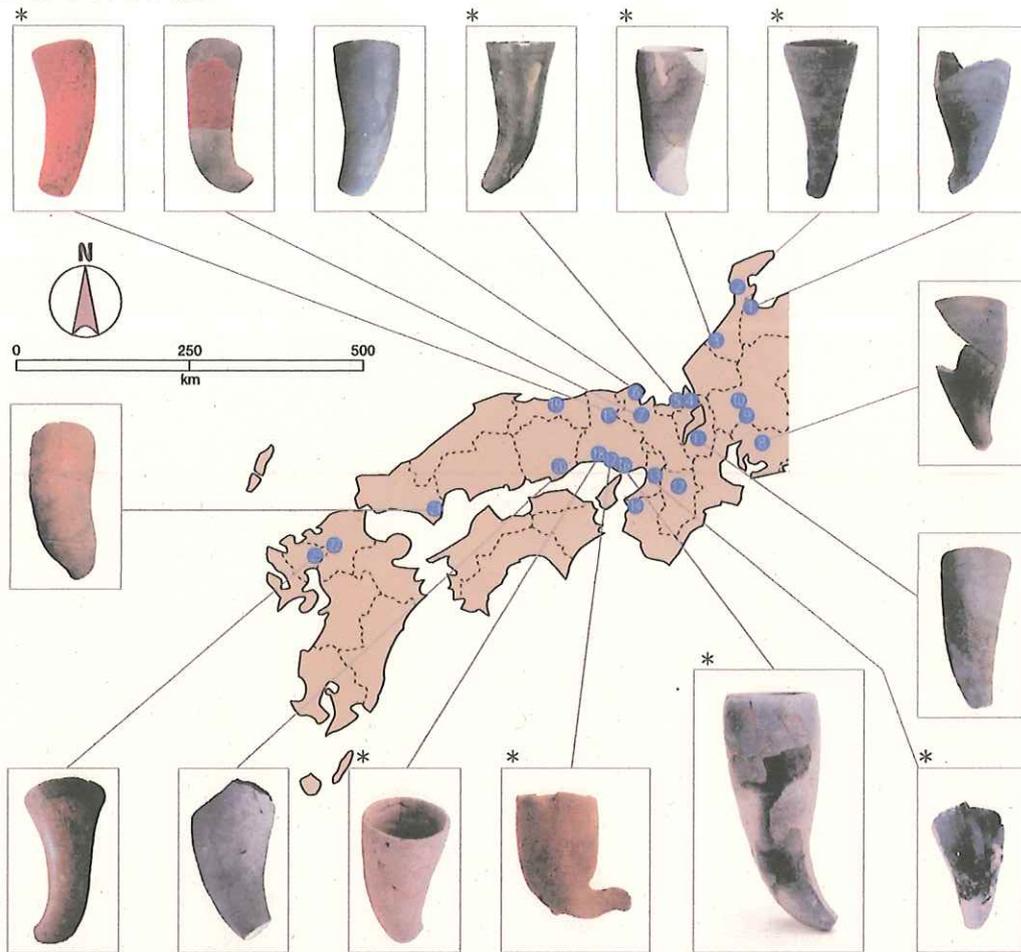


角杯形土器



装飾付壺

角环出土位置図と地名表



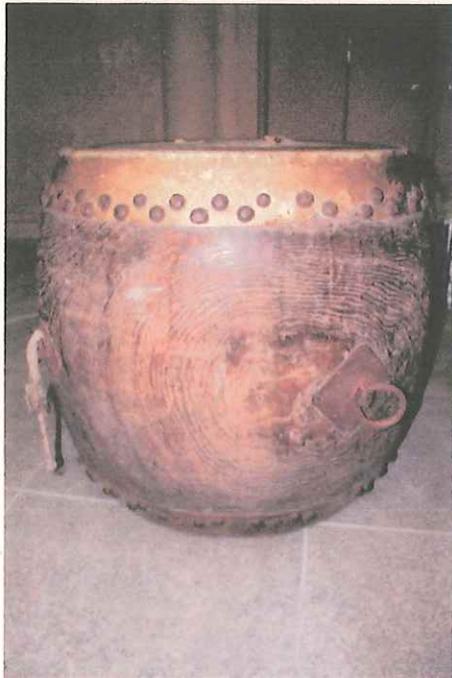
\*は所蔵機関より写真の提供を受けました。他は岡元撮影。

角环出土位置図・地名表の作成：岡元 順子

番号	遺跡名	所在地	法量 (cm)	素材	時期	出土遺構など	所蔵
1	上久津呂中屋遺跡	富山県氷見市上久津呂	h ≒ 15~18 φ = 8	須恵器	6~7世紀	落ち込みと流路	富山県埋蔵文化財センター
2	上棚中村畑遺跡	石川県羽咋郡志賀町大字上棚	h ≒ 20 φ = 9.8 × 8.7	須恵器	6世紀後半	大溝 上層部	石川県埋蔵文化財センター
3	敷地天神山遺跡	石川県加賀市大聖寺敷地町	h ≒ 17 (残存長) φ = 9.2	須恵器 (加賀産)	6世紀前半	竪穴住居覆土中	石川県埋蔵文化財センター
4	興道寺窯跡	福井県美方郡美浜町興道寺	h ≒ 21 φ = 11.6 他	須恵器	6世紀前半	灰原	東京国立博物館
5	獅子塚古墳	福井県美方郡美浜町郷市	h ≒ 16 φ = 7 h ≒ 22 φ = 10	須恵器	6世紀前半	横穴式石室	東京国立博物館
6	大耳尾2号墳	京都府京丹後市峰山町赤坂小字大耳尾	h ≒ 20 φ = 13	須恵器	6世紀初頭~前半	第1主体部棺外	京丹後市古代の里資料館
7	長砂南遺跡	京都府綾部市豊里町長砂	h ≒ 16 φ = 7.2	土師器	5世紀後半か	竪穴住居	綾部市資料館
8	梅坪遺跡	愛知県豊田市東梅坪町	h ≒ 18 φ = 9	須恵器 (儀投産)	6世紀末~7世紀末	溝状の不定形土坑	豊田市郷土資料館
9	蘇原地内	岐阜県各務原市蘇原野口	h ≒ 9.6 φ = 8	須恵器	6世紀後半	未詳 (古墳と推定)	個人
10	陽徳寺裏山1号墳	岐阜県関市千足裏山	h ≒ 18.2 φ = 8.7	須恵器	6世紀前半	石室内	岐阜県博物館
11	小槻大社10号墳	滋賀県栗東市栗東町下戸山	h ≒ 18 φ = 8.8	須恵器	6世紀前半	周溝底自然堆積土	栗東市出土文化財センター
12	南山4号墳	奈良県橿原市南山町	角环を載せた動物型高環	陶質土器	5世紀前半~中葉	墳頂部	橿原市千塚資料館
13	西岩田遺跡	大阪府東大阪市西岩田	h ≒ 22 φ = 9	須恵器	6世紀前半	溝?土坑?	東大阪市立歴史博物館
14	井辺八幡山古墳	和歌山県和歌山市井辺	角环を背負った人物埴輪	埴輪	6世紀前半	造り出し部	同志社大学歴史資料館
15	柿坪遺跡	兵庫県朝来市山東町大月	h ≒ 17.4 φ = 6.9	土師器 (柿色)	5世紀前半	竪穴住居床面	兵庫県立考古博物館
16	赤根川金ヶ崎窯跡	兵庫県明石市魚住町	h ≒ 23.9 φ = 8.8 他2	須恵器	6世紀前半	灰原・溝	明石市教育委員会
17	美乃利遺跡	兵庫県加古川市加古川町大野	h ≒ 11.6 φ = 7.2	土師器	古墳時代中期	溝	兵庫県立考古博物館
18	亀田遺跡	兵庫県播磨郡太子町上太田	h ≒ 13.4 φ = 8.6	須恵器	6世紀後半~	流路・包含層	兵庫県立考古博物館
19	青谷上寺地遺跡	鳥取県鳥取市青谷町	h ≒ 17 φ = 9 × 4	木器 (ヤマガツ)	弥生中期	溝	鳥取県埋蔵文化財センター
20	斎富遺跡	岡山県赤磐市山陽町	h ≒ 7 (残存長)	須恵器	6世紀前半	竪穴住居	岡山県古代吉備文化財センター
21	明地遺跡	山口県熊毛郡田布施町	h ≒ 16 φ = 7.3	土師器	5世紀中葉~後半	竪穴住居	山口県埋蔵文化財センター
22	隈・西小田1号墳	福岡県筑紫野市光ヶ丘	h ≒ 19.2? φ = 7.8?	須恵器	6世紀前半	古墳墳丘内	筑紫野市教育委員会
23	切畑A遺跡	佐賀県神埼市神埼町	h ≒ 14 φ = 9	土師器 (黒色磨研)	6世紀後半	溝	佐賀県立名護屋城博物館



稲爪神社太鼓



稲爪神社太鼓



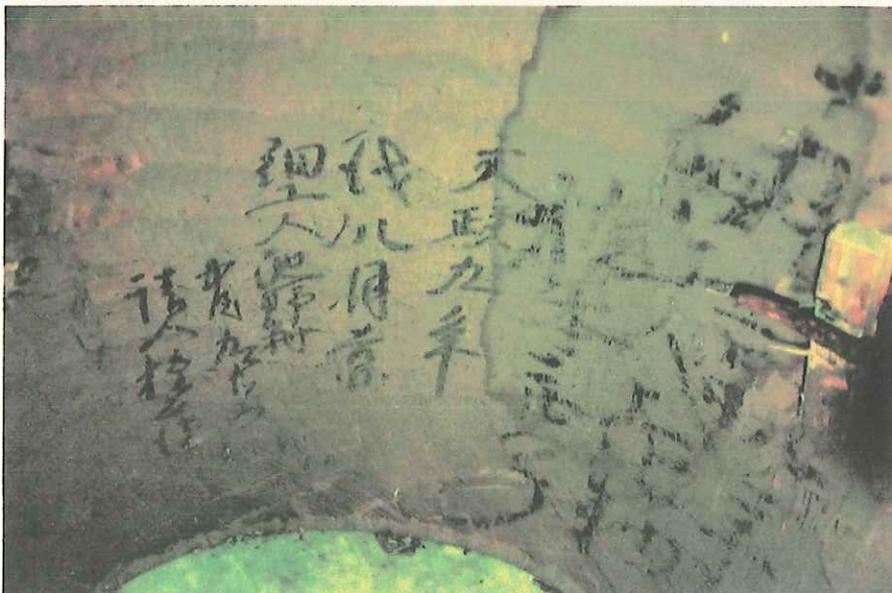
太鼓が載せられていた布団太鼓



太鼓内墨書



太鼓内墨書



太鼓内墨書

## 明石市内に残る江戸時代の布団太鼓の太鼓

### 稲爪神社 太鼓

大きさ 胴長 75cm、胴径 80cm、鏡面径 68cm

#### 胴内墨書銘

天明八 (1788) 戌申 九月吉日 細工人 淀屋ばし南詰 紀伊国屋 勘兵衛  
文化十年 (1813) 酉 八月吉日 はりかへ人 長九郎 池野村 請人 橋左衛門  
文政九年 (1826) 戌 八月吉日 細工人 池野村 九郎右衛門 請人 橋 左衛門  
安政三年 (1856) 辰 八月吉日 細工人 池野村 橋本屋 喜市郎  
明治九年 (1876) 子 九月吉日 細工人 池ノ村 橋本喜平  
明治十九年 (1886) 八月九日 太鼓 細工人 上池村  
明治〇年 (〇) 十月〇日 細工人 上池村 橋本喜兵衛  
大正拾四年 (1925) 九月廿八日 張替人 橋〇

### 八木村太鼓

大きさ 胴長 73cm、胴径 70cm、鏡面径 60cm

#### 胴内墨書銘

明和九年 (1772) 辰 摂州大坂 中之町  
寛政八年 (1796) 丑 七月吉日 太鼓張替人 池野村 傳兵衛  
天保十一年 (1840) 子 八月吉〇 細工人 池ノ村 〇

### 和坂村太鼓

大きさ 胴長 77cm、胴径 85cm、鏡面径 65cm

#### 胴内墨書銘

安永二年 (1773) 己 九月吉日 池野邑 細工人 太鼓屋傳兵衛  
寛政三年 (1791) 九月廿日 細工人 池野村 太鼓屋徳兵衛  
文化二年 (1805) 九月 細工人 池野村 たいこや伝兵衛  
辰 九月吉日 細工人池野村 橋本屋喜重郎 吉兵衛  
弘化三年 (1846) 喜一郎  
明治八年 (1875) 九月吉日 太鼓屋 細工人 吉谷〇〇 橋本九〇〇  
昭和二十二年 (1951) 太鼓屋 加古川町ビンゴ 石澤〇治  
昭和三十七年 (1962) 拾月 石澤光三  
昭和四十三年 (1968) 九月 石沢光三張之

参考

明石城太鼓

大きさ 胴長 77cm、胴径 85cm、鏡面径 65cm

胴内墨書銘

寛永拾 (1633) 五日 作人 九郎

寛永拾六年 (1639) 卯五月廿八日 上池村

慶安元 (1648) 十二月丁 作人□□

万治元年 (1658) □月十六日 作人 上池村

寛文九 (1669) 閏十月 日 上池村 作人□□

宝永二 (1705) 三月十六日 太□ はりて 池野 庄や 庄左衛門

正徳六 (1716) 歳 閏二月十一日 はりて 池野村庄屋 庄左衛門

享保八年 (1723) 卯月五日 張手 池野村 庄左衛門

享保拾八季 (1733) 戌五月 はりて 池野村庄屋 庄左衛門

享保廿年 (1735) 卯六月吉日 摂州大坂渡辺村北町 □兵衛

天保六年 (1835) 乙未三月吉日 細工人 池野村 清左衛門 伝兵衛

嘉永六年 (1853) 丑 六月吉日 張かへ 細工人 摂州渡邊村八軒町浜

文久四年 (1864) □月吉日 張替細工人 大坂渡辺村中之町

明治二十五年 (1892) 四月吉日張替 上池村 橋本梅松